

## 校長先生の部屋だより

### 哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今回はいつもの1年生の男子が3人やってきました。前回は「人の命の重さ」や「蟻の命の重さ」は、人間にとっての価値で、人間にとって「人の命の重さ」の方が「蟻の命の重さ」より重い、同じように蟻にとっては「蟻の命の重さ」の方が「人間の命の重さ」より重い、そこまで考えました。

—A 君の説によると、命の重さが結局相対的になってしまう。みんな同じ命の重さとは言えなくなってしまうんじゃないかな。君今日のお昼、何を食べた？

A：鶏肉です。

B：ご飯と、ピーマンとパプリカと・・・

A：えっ、ベジタリアン？

B：あ、ソーセージを食べました。

—ほら。命を奪っているじゃないか。野菜だけ食べていればいいかな？

C：無抵抗なものの命を奪うのは考えようによってはもっと残酷だと思います。

—ということはやっぱり命の重さは絶対的じゃないということ？

A：絶対的です。ただ強いものが弱いものの命をいただいているというに過ぎないんだと思います。そうしないと生きていけないから。

—う～ん。結局人間だけは生きている間は食べられることはないのだから、人間の命だけが絶対だって言っているような気がするけど。

B：でも宇宙人が来たら、人間は食べられちゃうよ。

—そうだね。じゃあ、ちょっと質問を変えるね。人間って、何かのために自分の命を犠牲にすることないかな？

A：人を助けるとか。

C：自分の正義のためとか。

—その場合、人間には命より大切なものがあることになるんじゃないだろうか。

A：命は大切だけれど、そんなことを忘れてしまうほど大切なことがある場合だと思います。

—なるほど。もう一つ質問するね。例えば、君が危篤状態で、人工呼吸器を付けられて、マカロニ状態で機械に生かされているとします。それでも生きていたいですか？

A：動けなくなったら生きていても仕方ないので、それだったら他の人に臓器をあげて、人の役に立ちたいです。

—危篤状態がもし自分の子どもだったら？それでもそう思える？

A：本人の意志がそうなら、そうします。

—さっきの人のためや正義もそうだけれど、命よりも自分の意志の方が大切だということになら



ないですか？これは命の重さとはまた違った、人格の問題になりそうです。今日はここまで。